

一般社団法人日本森林学会

2018年度の「林業遺産」に 4件が選定されました！

日本各地の林業は、地域の森林をめぐる人間の営みの中で編み出され、明治期以降は海外の思想・技術も取り入れながら、大戦期の混乱を経て今日に至るまで、多様な発展を遂げてきました。日本森林学会では、学会100周年を契機として、こうした日本各地の林業発展の歴史を、将来にわたって記憶・記録していくための試みとして、「林業遺産」選定事業を2013年度から開始しました。6年目となった2018年度は、全国各地から計7件の応募があり、そのうち4件を林業遺産(登録No.32~35)として認定しました。選定結果は、2019年5月28日の日本森林学会定時総会に併せて公表され、認定証・記念品が各件の所有者・管理者等に贈呈されました。

「林業遺産」についての詳細情報は、日本森林学会のホームページをご参照ください。

<https://www.forestry.jp/activity/forestrylegacy/>



4 郡上林業の歴史と技術を伝承する資料・展示と社叢林

美並ふるさと館および星宮神社社叢林の外観
美並ふるさと館再現展示の例

1 十勝三股の林業集落跡地と森林景観

上:当時の集落(出典:上士幌町地域の宝探しの会(2007)「十勝三股物語」)
下:三国峠からの樹海景観

3 琉球王朝時代の多良間島の「抱護」と「林政八書」

上:多良間島の「抱護」
下:「林政八書」(林政八書研究会所有)

2 木地師文化発祥の地 東近江市小椋谷

木地師の作業の様子
氏子駆帳

1	とがちみつまた 十勝三股の林業集落跡地と 森林景観	1920年代	かとうぐん 北海道河東郡 かみしほろちよう 上士幌町十勝三股	天然林の伐採とともに歩んできた北海道の開拓と林業の歴史を端的に示す、大規模林業集落跡地および原生と人為が織りなす森林景観
2	きじし 木地師文化発祥の地東近江市 おくらだに 小椋谷	平安時代	きみはたちよう 東近江市君ヶ畑町、 ひるたにちよう まんどころちよう 蛭谷町、政所町、箕川 ちようまわだちよう くいざちよう 町、黄和田町、九居瀬町	ろくろ 轆轤の使用をはじめとする独特の技術・習慣・制度を古来より継承してきた木地師文化の中心地
3	たらしま 琉球王朝時代の多良間島の 「抱護」と「林政八書」	「抱護」:18世紀 (1742年頃)、『林 政八書』:明治18 (1885)年	「抱護」:沖縄県多良間 村字仲筋、字塩川『林政 八書』:沖縄県浦添市 (林政八書研究会)	琉球王朝時代における蔡温(さいおん)の思想に基づく風土に根差した独自の森林施業法と林業政策が編纂された『林政八書』と、その施業法によって今も人々を護る「抱護」の樹林帯
4	くじよう 郡上林業の歴史と技術を伝 承する資料・展示と社叢林	およそ1820年代 ~ 1950年代	あきふらふら 岐阜県郡上市 みなみちようたかまご 美並町高砂	19世紀初頭から続く郡上の育成林業の姿を今に伝える資料・展示および高齢林